図版１　黒あし病による腐敗・倒伏

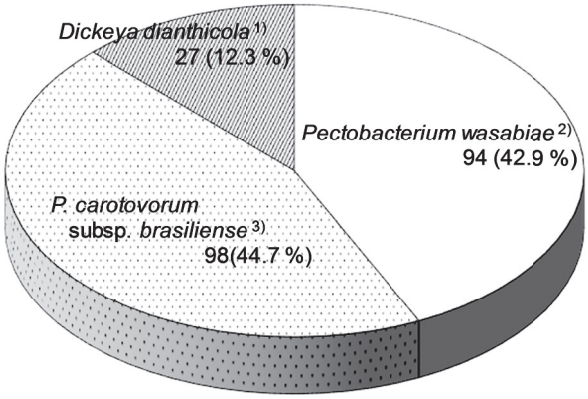

図１　北海道内で2000年以降に確認された発生菌種

１）= *Erwinia chrysanthemi* 、２）= *E. carotovora* subsp. *carotovora* 、
３）新発生菌種
注１）*P. atrosepticum*（＝*E. c.* subsp. *atroseptica*）の発生は認められない.
注２）数字は菌株数、括弧内は発生菌種割合（％）.

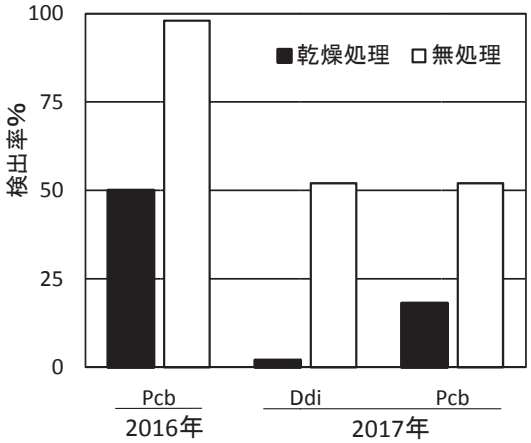

図２　通風乾燥処理による種いも表面の保菌低減効果

注１）処理時間は48 hr.
注２）病原菌浸漬接種いもを供試.
注３）試験は、TOMTEN 社製急速乾燥装置「空っ風君」で実施した.

表１　種ばれいしょ生産工程におけるジャガイモ黒あし病の保菌リスクと対応の考え方

項　目	知　見	対応の考え方
種いもの消毒	種いもの表面保菌を低減 内部保菌・傷いもには効果不十分	必ず実施する
切断刀の消毒	接触伝染を低減	必ず実施する
催芽処理	発生ほ場産では過度の催芽による芽の脱落・損傷で保菌リスクが高まる	芽の損傷を避けるため過度に催芽しない
発病株の抜き取り	発病株が残存すると保菌リスクを高める	新いもを含めた抜き取り・搬出を行う
茎葉処理	リーフチョッパー処理は保菌リスクを高める	発生ほ場では避けることが望ましい
収穫・選別	傷部位は保菌に好適 腐敗いもの混入は保菌リスクを高める	種いもは丁寧に扱う 傷・腐敗いもは選別・除去する
収穫したいもの乾燥処理	表面保菌を低減	通風乾燥装置を活用し乾燥を徹底する

注)下線は本試験で明らかになったことを示す.

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。
道総研十勝農業試験場
電話（0155）62－2431　E-mail：tokachi-agri@hro.or.jp